

タイトル：山王院・御社

高野山の開山前より、御社と山王院に丹生明神と狩場明神はこの地域で祀られていました。唐（中国）で真言密教を学んだ(空海として知られる)弘法大師（774-835）が、真言宗とその信仰の中心として高野山を開きました。開山前弘法大師は、この山に祀られていた日本の神々に許可と保護を求めました。弘法大師の祈りに応え、狩りの神である狩場明神は弘法大師に白と黒の2匹の犬を使わせ、高野山を開くべき場所を教えました。敬意と感謝の念として、819年に弘法大師はこの地に最初の神社を創建しました。狩場明神と丹生明神は、天野地区の神社の神でもあり、高野山の神職は神々に敬意を払い、崇拝の儀式と奉納を山王院で行うために、この地を訪れていました。

狩場明神と丹生明神は高野山だけでなく、この霊山に修行や学問を学ぶために訪れる巡礼者や参拝者も守ると信じられています。この神社は三棟の社殿から構成されており、一宮の丹生明神、二宮の狩場明神、三宮にはその他の神道の神々が祀られています。御社の入り口に立つ鳥居を越えた木々の上に浮かぶこの神社は、檜屋根をはじめとする伝統的な神道建築を特徴に持っています。1522年に建立されたこの神社は、国の重要文化財に指定されています。

山王院の拝殿の屋根は檜を材料とする入母屋造りで作られています。最後の再建は1845年でした。鳥居の奥に神々は祀られていますが、山王院において参拝者は神々に向けて敬い、神々のために定期的に儀式を執り行っています。

日本の中でもこの神社は、神道と仏教が共存している、良い例となっています。古くから日本の仏教寺院は、同じ場所で日本古来の神々を認め、敬ってきました。